

# AICS<sup>®</sup>検査結果指導ガイド（第6版）

監修：三井記念病院 総合健診センター 特任顧問  
足利工業大学 看護学部 学部長  
山門 實

## 目 次

- 1 AICS 値の意味について
- 2 各ランクに対する指導コメント
- 3 他の1次検査との併用について
- 4 複数のがん種でランクCであった場合
- 5 AICS<sup>®</sup>はランクCで、精密検査では陰性であった場合
- 6 AICS<sup>®</sup>はランクAまたはランクBで、がんであった場合
- 7 検査フローチャート
- 8 AICS 値が高値となる疾患について
- 9 AICS<sup>®</sup>検査対象外となる方について
- 10 検査前の薬剤の服用について
- 11 検査前の飲食について
- 12 検査前の運動について
- 13 検査の時間帯について

このAICS<sup>®</sup>検査結果指導ガイドは、AICS<sup>®</sup>が対象としている胃がん、肺がん、大腸がん、膵臓がん、前立腺がん、乳がん、子宮がん・卵巣がんを対象として作成しています。

## 1 AICS値の意味について

- AICS<sup>®</sup>検査は、統計的に現在がんである可能性を評価する検査で、がんであるかを確定診断するものではありません。AICS<sup>®</sup>検査は、それぞれのがんについて、がんである可能性を0.0～10.0の数値（AICS値）で報告します。この数値が高いほど、がんである可能性が高くなります。
- AICS<sup>®</sup>検査では、特異度80%と特異度95%のときの値を使い、がんである可能性を3つのランクに分けて表示します。  
ランクA、ランクB、ランクCの順でがんである可能性が高くなります。  
注：特異度80%とは、健康な人の80%がこの数字以下になるという値です。
- AICS<sup>®</sup>検査は、採血を行った時の、統計的に現在がんである可能性を評価する検査です。生涯にわたってのリスクを予測するものではありませんので、定期的な検査をお勧めします。

## 2 各ランクに対する指導コメント

すべて、ランクA	今回の検査では、現在がんである可能性は低いと考えられます。 通常のがん検診をお受けください。
いずれかが、ランクB	(ランクBであったがん種について) 通常の生活をされている方より、 現在がんである可能性が、1.3～2.1倍程度高いことになります。 通常のがん検診をお受けください。
いずれかが、ランクC	(ランクCであったがん種について) 通常の生活をされている方より、現在がんである可能性が、 4.0～11.6倍程度高いことになります。精密検査をお受け下さい。

「通常のがん検診」とは、以下のような検査です。

- 胃がん : 胃X線検査、胃内視鏡検査
- 大腸がん : 便潜血検査(免疫法): 1日法、2日法
- 肺がん : 胸部X線検査と喀痰細胞診併用法
- 膵臓がん : 腹部超音波検査、CA19-9検査
- 前立腺がん : PSA検査
- 乳がん : マンモグラフィと視触診併用法、超音波検査
- 子宮頸がん : 細胞診

### 3 他の1次検査との併用について

各1次検査は各々独立した検査と考えます。従って、どれかの1次検査で陽性（もしくはランクC）であった場合には精密検査の受診を勧めます。

### 4 複数のがん種でランクCであった場合

報告書では、同時に複数のがん種に関する結果が表示されますが、各がん種については独立な結果と考えて、ランクCであったがん種すべてについて精密検査の受診を勧めます。

### 5 AICS<sup>®</sup>はランクCで、精密検査では陰性であった場合

精密検査をした結果では、がんは発見されませんでした。

---

なお、早期がんでもアミノ酸パターンの変化があることが知られています。AICS<sup>®</sup>でランクCであっても、がんがまだ小さくて精密検査で分からない場合がありますので、翌年（肺、膵臓は進展が早いので半年後）に、再度、精密検査を受診されることをお勧めします。

※受診期間は目安です。

---

上記の検査受診勧奨に加えて、生活指導も行います。

がんにならないためには生活習慣に気をつけることも大切です。特に喫煙と食生活はがんの罹患に密接な関係があるとされています。詳細については以下の情報が公表されていますので参考にしてください。

がんを防ぐための新12か条

[http://www.fpcr.or.jp/pdf/p21/12kajyou\\_2016.pdf](http://www.fpcr.or.jp/pdf/p21/12kajyou_2016.pdf)

## 6 AICS®はランクAまたはランクBで、がんであった場合

一般的に、偽陰性(見逃し)のない検査は存在しません。

AICS®検査も、統計的に現在がんである可能性を評価する検査であり、がんの有無を直接調べる検査ではありませんので偽陰性はあります。

各種がん患者におけるランクAまたはランクBの割合は、下記のようになっています。

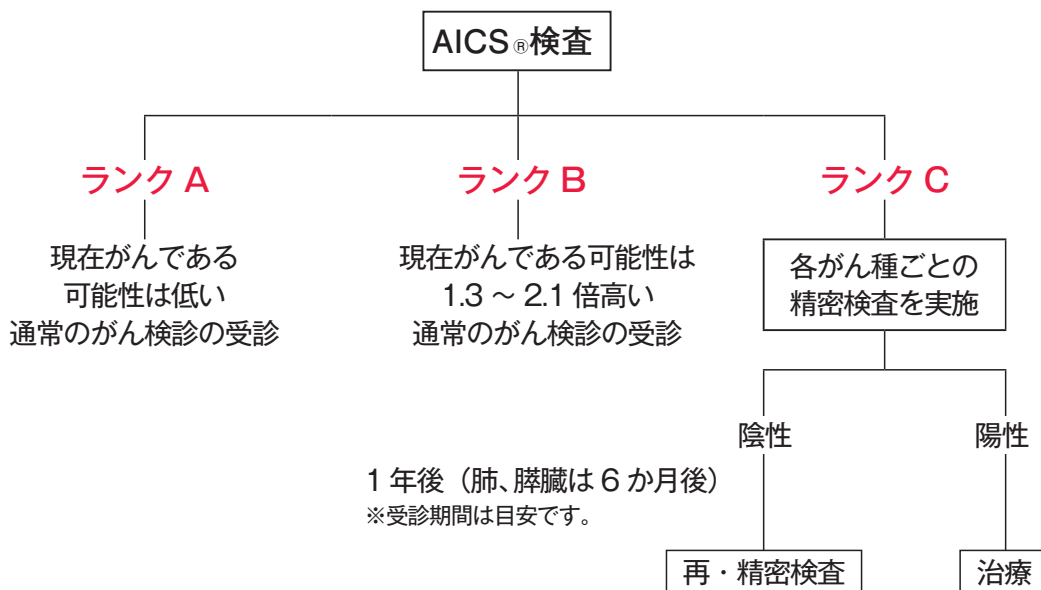
	がん患者における ランクAの割合	がん患者における ランクAまたはランクBの割合
AICS(胃)	25%	49%
AICS(肺)	27%	55%
AICS(大腸)	40%	59%
AICS(膵臓)	23%	42%
AICS(前立腺)	36%	68%
AICS(乳腺)	53%	80%
AICS(子宮・卵巣)	20%	42%

がん患者におけるランクAの割合 = 100% - ランクBまたはランクCでの感度\*

がん患者におけるランクAまたはランクBの割合 = 100% - ランクCでの感度\*

\*感度は、症例対照研究に基づき、がん患者と健常者がそれぞれ異なる集団から算出されています。

## 7 検査フローチャート



AICS®検査は、生涯にわたってのリスクを予測するものではありませんので、毎年受診することをお勧めします。

## 8 AICS 値が高値となる疾患について

以下の疾患に罹患している場合は、AICS 値が高値（陽性率が 20%以上）となることが、現在までに知られています。

- ・ AICS (肺)： 慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、肺非結核性抗酸菌症、肺結核、肺気腫、無気肺
- ・ AICS (前立腺)：前立腺肥大、糖尿病
- ・ AICS (子宮・卵巣)：子宮筋腫、子宮内膜症、良性卵巣腫瘍
- ・ 複数の AICS® に影響がある疾患：脳梗塞

上記の疾患に罹患している方を、AICS® 検査の対象外とするものではありません。AICS® を受診することによって、がんを発見できる機会となると同時に、疾患による影響で偽陽性、偽陰性になり得ることを説明した上で、受診を勧めてください。

## 9 AICS® 検査対象外となる方について

以下に該当する方は、AICS® の検査対象外となります。

### 1) 妊娠されている方

妊娠されている場合、血漿中のアミノ酸濃度は全般的に低濃度になり、AICS 値に影響を与えることがわかっていますので、妊娠されている方は検査対象外となります。

### 2) 授乳中の方

授乳期間中は、アミノ酸濃度が変動することが知られており、AICS 値に影響を与えると考えられるため、検査対象外となります。

### 3) がん患者（治療中を含む）の方

AICS® 検査は、統計的に現在がんである可能性を評価する検査であるため、がん患者（治療中を含む）は検査対象外となります。

### 4) 先天性代謝異常の方

先天性代謝異常の方は、特定のアミノ酸濃度が大きく変動することが知られており、AICS 値に影響を与えると考えられるため、検査対象外となります。

### 5) 透析患者の方

透析患者の方は、透析の影響でアミノ酸濃度が変化することが知られており、AICS 値に影響を与えると考えられるため、検査対象外となります。

## 10 検査前の薬剤の服用について

薬剤の AICS 値に及ぼす影響はわかっておりません。

当日の服薬については、主治医あるいは健診施設の医師の指示に従ってください。

## 11 検査前の飲食について

検査前 8 時間以内に、水以外(食事、サプリメント等)は摂らないように指導してください。

なお、検査前日の夕食も高タンパク質の食事は避けるように指導してください。

## 12 検査前の運動について

正しい検査結果を得るために、検査当日朝の運動は控えていただくように指導してください。

## 13 検査の時間帯について

午前中に採血してください。

